

# 灯



灯火親しむ秋、といわれたのは随分と昔のように感じてしまうこのころだ。最近ではタブレットやスマホで小説などを読む人が増えたので「灯火」という言葉の印象は薄い。小さいころから本好きだった私は本を読んでいると、今この子に用事を頼んでもダメ、と親の方が諦めていた、という話を聞かされたものだ。

小学生のころ、父

が出張の際に買ってきてくれる少年探偵団シリーズが楽しみで、待ちきれずに駅まで迎えに行っていたのを思い出す。一方で履歴書の趣味欄に読書、と書く人が随分と少なくなっただも感じる。

本好きといってもさほど難しい本を読むわけではなく、ミステリ

ー系統が大半で若いころにはSFも好きなジャンルであった。さすがに古希を過ぎると視力も弱ってきているので、本を読むときは頭上のライトの他に、背中からもう一つ本に光が当たるように用意している。定番のコナン・ドイル、アガサ・クリステイ、エラリー・クイーン、江戸川乱歩、松本清張などは昔ほほほ読了。



草野 義輔

最近ではジェフリー・ディーヴァーや北

欧ものが面白い。近年コラムなどを書くようになり、文章とは言葉のつながりであり、言葉が豊富であるほど文章も豊かになる可能性が高くなると考えるようになった。言葉が豊富になるには読書が有効な手段であることは間違いない。少しでも良い文章をと、月10冊の読書を中心掛けている。

心掛けています。

(昭和学園高校理事・日田市)